で識別することができる.

(1) 頭部が著しく小さいこと（オオミズアオでは頭幅約7mmでかなり大きい).

(2) 前頭および副前頭が縦に長いこと（オオミズアオでは前頭は幅よりもやや低く，副前頭縫線は著しく屈曲し，頂部に作る角が鈍角をなす).

(3) 個体変異の点が不詳であるが今回の材料においては，瘤起に黒帯・黒環が著しいこと.

(4) 同じく今回の材料においては，肛上板の斑紋が図の如く異なること.

習性・発生経過

野外での食草はまだ観察されていない. 飼育にあたってはハンノキを使用したが完全に発育した. 印度ではドクウツギ・ヒメシャクナゲ・フヨウの各属・ヤナギ・サクラ・クルミなど各種の植物につくというので，日本でもかなりの多食性ではないかと想像される. オオミズアオの食草として従来カエデ・サクラ・ウメ・アンズ・ナシ・リンゴ・ハンノキ・カバノキ・ザクロ・アセビ・クリ・コナラなどが記録されているが，この中にはオナガミズアオの幼虫で観察されたものも含まれているかもしれない. 著者がオオミズアオを採集したのはカエデである.

発生回数は北海道では1回（6～7月)，関東—近畿では2回（4～5月・8月）であるが，南方地域では3回あるいはそれ以上であろう. 飼育記録は産卵28—VIII，孵化3—IX，2令9—，3令13—，4令18—，5令23—，営繭30—IX，羽化1♂27—X，1♀5—XI（池田市，1960). ここに採卵した蛾は第2化のものであろう. したがって通常の経過では蛹でそのまま越年するものと思っていたが，居室内に置いていたところ上記のように第3化が出現した. 雄交尾器は確実にオナガミズアオの特徴を示している. 繭および蛹の形態はオオミズアオと全く同様である.

〔付記〕 日本幼虫図鑑に河田（1959）によって発表されているオオミズアオ幼虫は，瘤起の記載の一部にミスがあるが，確実なオオミズアオである.

台湾産未記録種及び異常型数種の蝶類

村　山　修　一[1)]

An unrecorded and some aberrant butterflies from Formosa

By Shu-iti Murayama

以下私は主として陳維寿氏提供の標本に基づき，台湾産の1未記録種と14の新異常型及び既知の2異常型を記載し，併せて日本産の1新異常型を発表する. ここに，陳維寿氏始め日本産標本を提供された古阪道雄氏，比較材料として標本または文献を貸与された下野谷豊一氏，小林桂助氏，吉田真日出氏に対し謹んで御礼申上げる. 以下特記しない標本はすべて著者の所蔵品である.

Papilio paris hermosanus Rebel ab. *divinitus* **nov.** (fig. 1 & 11) ルリモンアゲハ異常型

Type 1♂ Poli? 採集年月不明 Length of forewing 50mm. 表面後翅第1，2，3各室の青緑紋は正常型より背高く且黄色味を加える. 第5室の青緑紋は内方にのびて中室端にも同色の斑紋をあらわす，第5，6各室の青緑紋は正常型程外縁に延びない，第7室にも明瞭で稍々大きい青緑紋をあらわす，裏面後翅紫赤色の弦月紋

1） 大阪府茨木市新庄町744

列は巾広くなり，内方を紫色に縁どられた太い赤色帯を形成し美事である．表面における以上のような斑紋配置の状態はかって私が発表したシロオビアゲハ異常型 *inaequalis* に似ており，タイワンモンキアゲハの配列状態に近いものである．

Papilio paris hermosanus Rebel ab. ***subdivinitus*** **nov.** (fig. 27) ルリモンアゲハ異常型

Type 1♀ Poli, 17. Aug. 1956 Length of forewing 43mm 表面は正常型同様で裏面のみ上記 *divinitus* と同様になったもの，赤色帯は一層鮮明で太く（その巾 5～7 mm.）橙黄色にやや褐色味加わり，帯の外側は細い紫白色の線によって縁どられる。

Paratype（陳氏所蔵）1♂ Mt. Sylvia, 13. Jun. 1959, 前翅長同様，このほか正常型と本異常型との中間型が私の手許に 2～3 頭あり，案外あらわれ易い異常型と考えられる．

Catopsilia pomona Fabricius ab. ***emblematis*** **nov.** (fig 10 & 12) ギンモンウスキチョウ異常型

Type 1♀ Poli, May 1960, Length of forewing 34mm. 表面前翅第 4，5，6，7 各室の中央に近い小形の黒斑はそれより内側，すなわち基部の方向に向って灰黒色に拡大し，第 8 室も基部近くまで黒鱗を散布する．中室端黒点の周囲にも黒鱗が多い．裏面前後翅とも中室端の小形な紋を中心に翅の中央に黒褐色の大形な斑紋が拡がる．

Hebomoia glaucippe formosana Fruhstorfer ab. ***dorotheae*** Nakahara ツマベニチョウ異常型

1♂ Yanming, Taipei, 6. July 1956, Length of forewing 47mm. 村山所蔵 本異常型は1935年中原博士（Zephyrus, 6 (1) : 20, tab. 3）の発表後第 2 頭目の記録．他に下野谷氏所蔵の 1♂がある．

Cepora nadina eunama Fruhstorfer ab. ***discoloris*** **nov.** (fig. 9) ウスムラサキシロチョウ異常型

Type 1♂ Poli Spring, 1960. Length of forewing 32mm. 表面前後翅とも翅端の黒斑がすべて淡褐色に変じ，裏面も同様灰黒色の部分は淡褐黄色に変っている．斑紋色素の不足した型と考えられ，この点上記ツマベニチョウと同系統の異常型である，こうしたものはあるいは畸型に属するとみた方が至当かもしれない．

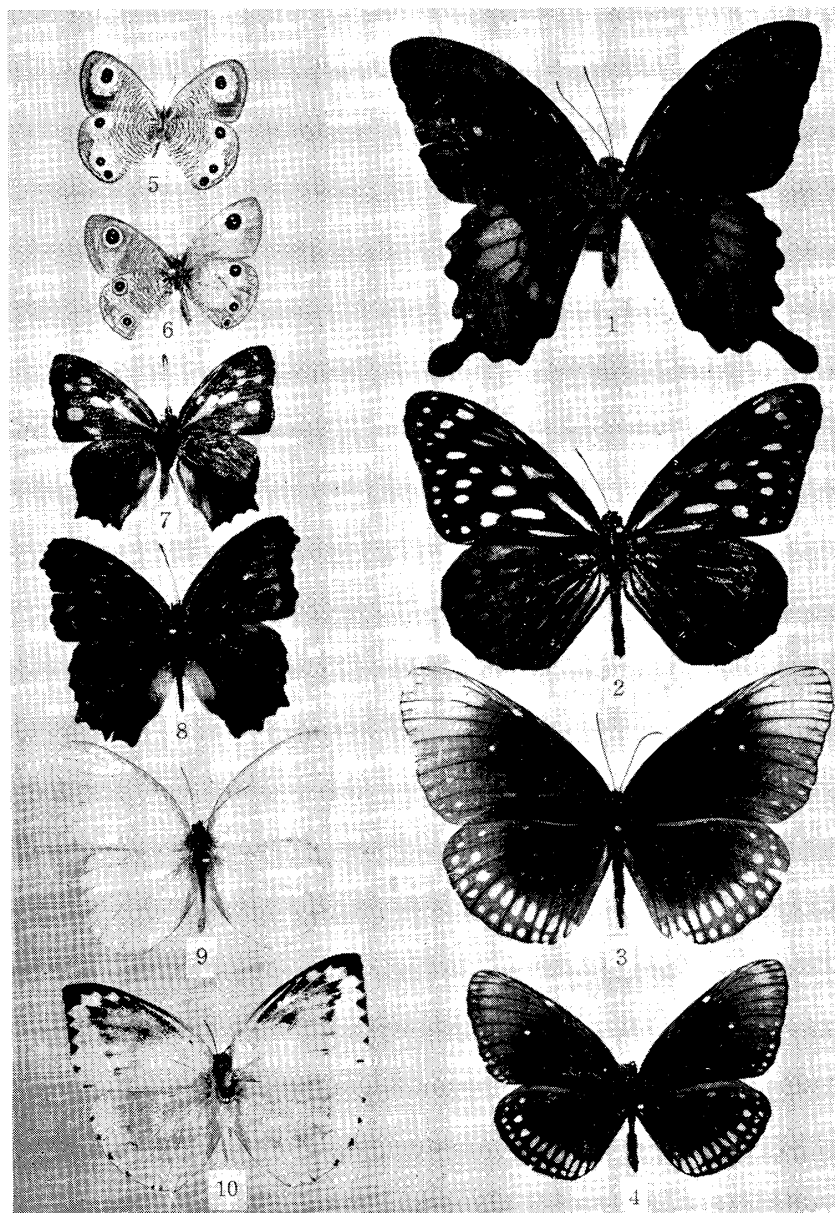
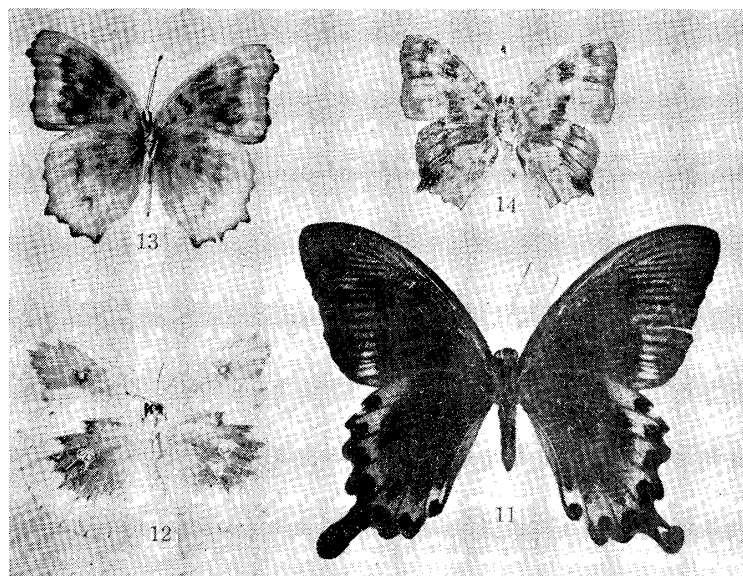



Fig. 1 & 11 *Papilio paris hermosanus* ab. *divinitus* ab. nov. ♂
Fig. 2 *Tirumala hamata septentrionis* ab. *seminocturalis* ab. nov. ♂
Fig. 3 *Euploea core godarti* LUCAS ♀ (E. Manipur, India)
Fig. 4 *Euploea core garampiana* ssp. nov. ♀
Fig. 5 *Ypthima motschulskyi* ab. *yoshisakai* ab. nov. ♂
Fig. 6 *Ypthima multistriata* ab. nov. ♂
Fig. 7 & 14 *Symbrenthia hippoclus formosana* ab. *necopinatus* ab. nov. ♂
Fig. 8 & 13 *Precis iphita* ab. *pullus* ab. nov. ♂
Fig. 9 *Cepora nadina eunama* ab. *discoloris* ab. nov. ♂
Fig. 10 & 12 *Catopsilia pomona* ab. *emblematis* ab. nov. ♀

Ixias pyrene insignis BUTLER ab. *pallida* NIRE メスジロキチョウ異常型

1♂ Poli, 7. May 1958, Length of forewing 28mm. 村山所蔵 本異常型は1917年仁礼景雄氏（動物学雑誌29（343）:142～148）が記載したものであるが，その後寡聞にして例を知らず，本個体が第2頭目かと思う．なお序乍ら♀で向って左前翅の前縁白色部が 2mm程の巾をもって橙色帯を形成している個体があるのであわせて記録しておく． 1♀ Poli, June, 1960, 前翅長 29mm.

Euploea core garampiana **ssp. nov.** (fig. 4) ガランピマダラ（新亜種新称）

Type 1♀, July 1959, Garampi (Southern part of Formosa), Length of forewing 37mm. 種 *Core* CRAMER は台湾から未記録のもので，ここに台湾からのマダラシロチョウ科が1種さらにふえることになった．*Core* はインド・マライ・仏印地方に広く分布し， 2～3の亜種に分れるが， 東インド・シャム・メルグイ諸島方面からしられた亜種 *godarti* (fig. 3) (SEITZ では独立種にしてある）に最も近いので，これと比較しながら次に記載する．*Godarti* に比して遙に小形，表面前翅頂は *godarti* ♀では著しく紫白色となるが，本亜種はそれ程著しくない．第3， 10各室の中室に近い白点は明瞭， 後翅外縁及び亜外縁の白色紋列は頗る明瞭， 第1， 2各室では外縁の小白紋と亜外縁の細長い白紋は殆んど融合している，裏面，大差ないが，前翅中室端の紫白紋は *godarti* では明瞭だが，本亜種は微小な点となって不明瞭，また亜外縁第1， 2， 3各室の白紋も極めて小形．後翅の白紋は総体に *godarti* よりむしろ明瞭でよく発達する．タイプ以外のもう1頭は陳氏が外国へ送られた由．

Tirumala hamata septentrionis BUTLER ab. *seminocturalis* **nov.** (fig. 2) コモンアサギマダラ異常型

Type 1♂ Poli? May 1959, Length of forewing 48mm. 私がさきに New Entomologist (7. (1): fig. 7 1958) に発表した本種の全黒化型 *nocturalis* の後翅のみ黒化し，前翅は正常型に近く，やや斑紋が小さい程度のものである．中原氏の記載された ab. *jacouleti*, 1943 は前翅のみ黒化し， 後翅は斑紋が大分残っているもので本異常型としては反対の場合である．

Ypthima multistriata BUTLER ab. **nov.** (fig. 6) タイワンウラナミジャノメ異常型

Type 1♂ Poli, 7. Apr. 1950, Length of forewing 19mm. 翅の向って左翅の裏面のみ異常を呈する．基部より亜外縁近くまで地色黄色味強く，波状の黒褐色紋は消失する，特に前翅眼状紋，後翅前縁に近い眼状紋は黄色の地色に囲まれ，正常型にみる黄色の環状班は不鮮明となる，これに関連して最近神戸で古阪道雄氏が興味あるウラナミジャノメの異常型を採集せられたのであわせてここに記載しておきたい．

Ypthima motschulskyi BREMER et GREY ab. *yoshisakai* **nov.** (fig. 5) ウラナミジャノメ異常型

Type 1♂ 20. Aug. 1960, Mikage-cho, Kobe. Length of forewing 18mm. 吉阪氏採集 村山所蔵. 裏面前後翅とも眼状紋の周囲の黄色の環状斑は正常型ではその外側が褐色に縁取られているのに，本個体ではその縁取りがすべて消失してしまっているので一種異様な感を与える.

Symbrenthia hippoclus formosana FRUHSTORFER ab. *necopinatus* **nov.** (fig. 7 & 14) キミスヂ異常型

Type 1♂ Poli? 1959. Length of forewing 24mm. 表面前翅は橙赤紋やや発達わるく，第5室紋は小形，第7，8各室前縁近くの紋は殆んど消失，前縁に接して少しくその痕迹をのこす程度，第1，2各室の紋も小，後翅は斑紋すべて消失し，ただ内縁のみ淡褐色を呈する. 裏面前翅中央の後縁より前縁に向つて走る2条の褐赤色線は消失，第1，2各室基部の紋，横脈に接した斑紋などすべて消失し，これらは不正形な黒褐斑となる. 後翅基部近く内縁より外縁に走る2条の褐色線は消失，その他亜外縁帯にある複雑な斑紋も消え，基部に暗褐色の不正形な大斑と第4，5，6，7各室の中央近くに不明瞭な暗褐色線があるのみ，尾状突起の部分にある藍色紋は黒褐色に変っている.

Precis iphita CRAMER ab. *gynaiensis* **nov.** (fig. 18 & 24) クロタテハモドキ異常型

Type 1♂ Gynai, 21. July 1959, Length of forewing 32mm. 表面前後翅とも中央及び亜外縁の暗黒色帯は極めて不明瞭となり，後翅亜外縁の眼状紋列は消失，裏面後翅中央の暗黒色帯のみ明瞭，亜外縁の眼状紋列は消失する.

Precis iphita CRAMER ab. *pullus* **nov.** (fig. 8 & 13) クロタテハモドキ異常型

Type 1♂ Poli, Summer, 1959. Length of forewing 28mm. 表面前翅外縁は約2～3mmの巾で黒褐色，その内側には淡色紋列あり，またその内側は黒褐色となる. 中室は強く暗黒色を帯びるが，赤褐色の2条の帯がその中央に認められる，後翅も亜外縁に不明瞭な淡色紋列があるほか，すべて黒褐色となる. 裏面地色黄灰色となり，前翅亜外縁は特に灰色に目立つ一帯あり，その内側は赤褐色の雲紋状となり，中室基部近く明瞭な黒褐色の2帯がある. 後翅も基部近くは黒褐色の雲紋状となり，その外側にも不明瞭な褐色斑列あり，これらは眼状紋の崩れたものと思われる. 前後翅共後縁は黒褐色に縁どられる.

Precis almana asterie LINNÉ ab. *inauditus* **nov.** (fig. 15 & 21) タテハモドキ異常型

Type 1♀ South Cape, 20. June 1959, Length of forewing 31mm. 表面前翅，翅頂に近い2個の小形の眼状紋は退化して小黒紋となり，別に亜外縁暗色線は遙か内方へよって，ジグザグに外縁に沿い第1室まで延び，外縁との間の地色は暗色味加わる，後翅中央の眼状紋は中心の2個の白点が消え，小形な2個の複合円紋となる，正常型では外縁の黒色線の内側にさらに暗黒色の一帯があるが，この異常型ではそれが内方へより，ジグザグ状に前縁から内縁角へ延びている，裏面前翅頂近くの2個の小眼状紋は消失し，後翅大形の2眼状紋は小形の2円環紋となり，小形の眼状紋も極めて小さい円環紋となる. 前後翅亜外縁の暗色線は遙か内方へよってジグザグ状になる.

Precis almana asterie LINNÉ ab. *fluentis* **nov.** (fig. 16 & 22) タテハモドキ異常型

Type 1♂ Gynai, 16. July 1956, Length of forewing 28mm. 表面前翅の橙色の部分拡大し，第2室の眼状紋消失して痕迹だけになる. 中室の2個の黒環紋の外側，翅頂との間にある前縁近くの黒色紋や眼状紋は消失，亜外縁の暗色帯も薄くなって不明瞭，後翅は暗化し，次の異常型に似るが，中央の眼状紋の輪廓は割合完全な円形で第2室外縁近くにも小形の眼状紋をのこす，裏面前翅外縁亜外縁の黒色線は消失，翅頂に近い眼状紋も消失，第2室の眼状紋は細い黒線の円環（中央は小さい白点）となる. 後翅も外縁亜外縁消失，中央大形の眼状紋及び第2室の小形の眼状紋は細い黒線の円環となり，中央に白点がある.

Precis almana asterie LINNÉ ab. *liquefactus* **nov.** (fig. 17 & 23) タテハモドキ異常型

Type 1♂ Poli, 8. Aug. 1956. Length of forewing 27mm. 表面前翅著しく暗化し外縁及び中室前縁，翅頂一体暗色，中室基部に小形の橙色紋がある，第1b，2，3，4の各室は中央部のみ少し橙色，第2室の眼状紋

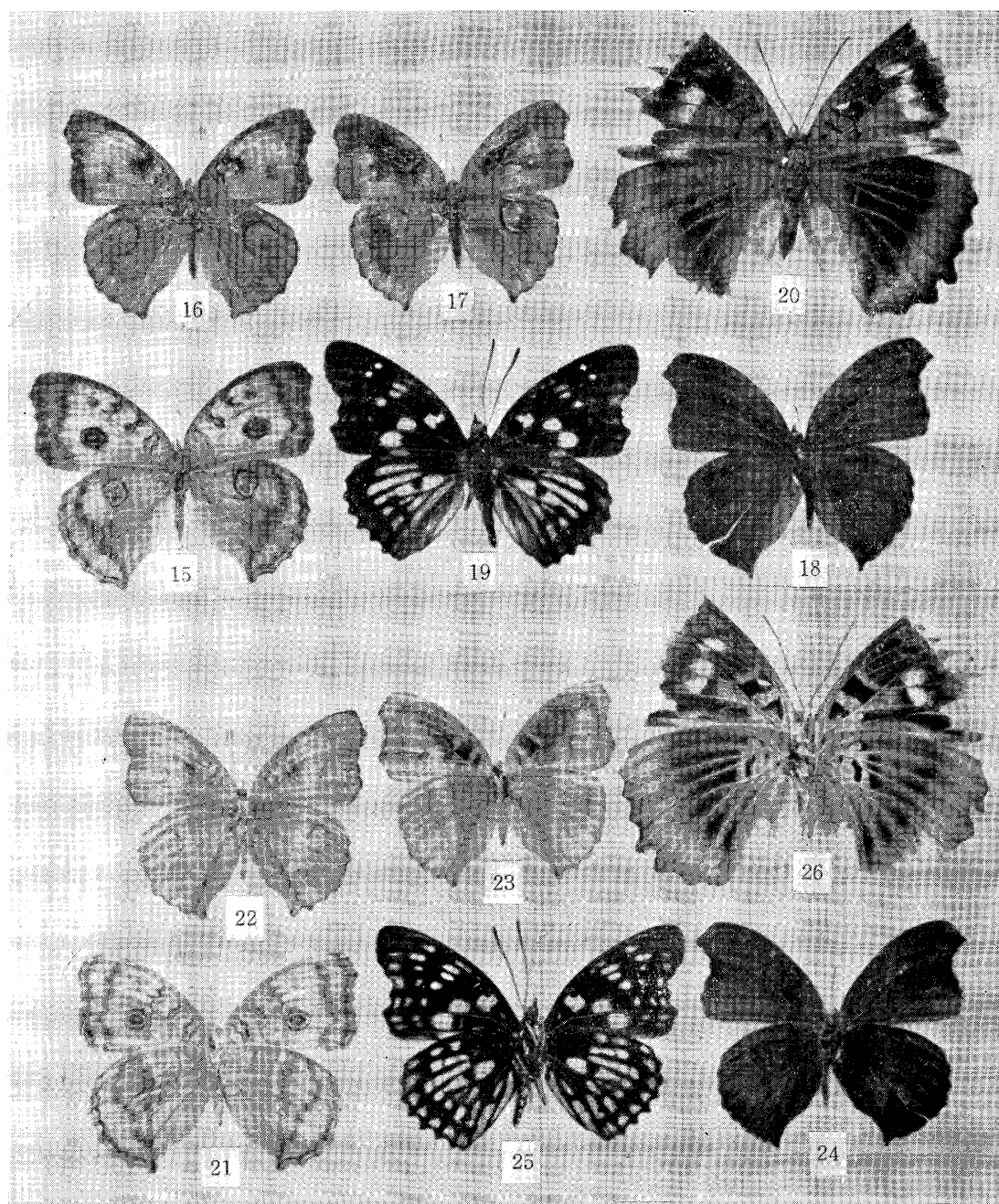



Fig. 15 & 21 *Precis almana asterie* ab. *inauditus* ab. nov. ♀

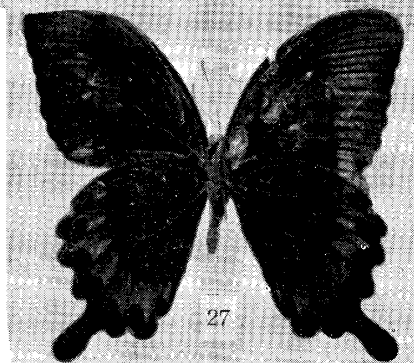
Fig. 16 & 22 *Precis almana asterie* ab. *fluentis* ab. nov. ♂

Fig. 17 & 23 *Precis almana asterie* ab. *liquefactus* ab. ♂

Fig. 18 & 24 *Precis iphita* ab. *gynaiensis* ab. nov. ♂

Fig. 19 & 25 *Sephisa chandra androdamas* ab. *scurrae* ab. nov. ♂

Fig. 20 & 26 *Euthalia formosana* ab. *nugatoris* ab. nov. ♀

Fig. 27 *Papilio paris hermosanus* ab. *subdivinitus* ab. nov. ♀

は中央に白点のある黒円紋にかわる．後翅も一体に暗灰色となり，外縁亜外縁の黒色線なく，この部分は灰黄色，眼状紋は外側の円環線消えて不鮮明となる，第2室の小眼状紋は消失，裏面前翅第1b，2，3各室の基部，中室及び第4，5各室の内側半分は暗黒色，但し中室基部及び中央に2個の黄白色帯あり，第2室の眼状紋は殆んど消えて中央白く，内側に黒線の輪廓があるだけとなる．後翅も中央の眼状紋は小形な白点と内側に輪廓の細い黒線がある程度，中央に不明瞭な白帯があるほか，亜外縁に不鮮明な暗色帯があるのみ．以上私は *Precis* 属の異常型2種5型を記載したが，陳氏所蔵品にはこのほかに種 *almana* に3例，種 *lemonias* に1例の異常型があり，何れも従来記録されたことのない型である．これらは紙幅の関係もあるので他日記載することとする．

Sephisa chandra androdamas FRUHSTORFER ab. *scurrae* **nov.** (fig. 19 & 25) キゴマダラ異常型

Type 1♂, Mt. Morrison, 3. June, 1959, Length of forewing 36mm. 写真は些か露出がすぎ黒くなったので記載を充分参照せられたい，前翅表面赤紋の外側の白色紋列は消失し，第3，4，5各室のみ小形の斑紋をのこす，翅頂近く3個の不鮮明な淡白紋は消失，後翅亜外縁の赤色紋列はのびて中央の赤紋に接近し，第4，5，6各室の紋は中央の赤紋と融合し，第7室紋は消失，中室の赤紋中の黒斑は大形となる，裏面前翅中室基部に近い白紋は消失，中央の赤紋は稍々小さく，その外側の3個の白色紋列や，その間に点在する青白色紋は小形となる，後翅亜外縁の赤紋列は外側において退化し，内側は延びてその先端は中央の赤紋に融合し，あるいは非常に接近するが，中央の赤紋は各室毎に分裂し，中室の赤紋は真中から2つに分裂し小形となる，外縁に近い青色紋列は巾広くなる，基部に近い数個の小青色紋は消失，これを要するに本異常型は斑紋の退化と融合が重なり合ったものである．

Euthalia formosana FRUHSTORFER ab. *nugatoris* **nov.** (fig. 20 & 26) タカサゴイチモンジ異常型

Type 1♀. Poli? Summer. 1959, 表面前翅（外半は破損）中央の黄白帯は退化し，細くなり，且その輪廓は明瞭でない，特に向って左翅中室端の黄白紋は不明瞭である，後翅中央黄白帯は全く消失，そのあとは黒青色帯となり，正常型では黒青色帯となる亜外縁一帯が薄い青灰色帯となり，正常型における外縁に近い淡色帯はなくなっている，裏面前翅中室は中にある2個の円環の部分を除いて黒化し，その黒化は翅頂に向って次第に薄くなる，中央黄白紋も小さくなり，第2，3各室にのこり，左翅のみは4，5各室にも少しくのこる，後翅中央黄白帯は黒青色となり，その輪廓は不明瞭，但し翅脈が横切る部分は翅脈の両側のみ淡色，基部に近い2～3の円環の間は黒化している，外縁に近い暗黒色紋列は消失する，なお本異常型はもう一頭完全な標本が下野谷豊一氏の手許に所蔵されており，これを Paratype とするが詳細は他日にゆづりたい．

Resumé

In the present paper, an unrecorded species, fourteen new aberrant forms, two known aberrant forms of Formosan butterflies, and a new aberrant form of Japanese one are described. Almost materials from Formosa collected by Mr. W. S. CHUNG, to which I am very indebted. All specimens described in this paper except for *subdivinitus* (Type) in author's coll.

Euploea core garampiana **ssp. nov.** ♀ The species *E. core* is newly recorded from Formosa. Very closely allied to *core godarti* LUCAS, but differs from it in the following characters; Size very smaller. Upperside, apex of forewing is not so purplish white as in *godarti*, two lines of white slender markings in marginal, submarginal areas of hindwing very developed, so these lines fuse in interspaces 1 & 2.

Papilio paris hermosanus ab. *divinitus* **nov.** ♂ Upperside, the blue green markings in interspaces 1, 2, 3 of forewing taller, with yellowish tone. At the end of discoidal cell appear blue green marking. The marking in interspace 7 very distinct. Underside, the line of purplish red crescent markings in hindwing well develop into the wide beautiful band, inside being edged by purplish scales.

Papilio paris hermosanus ab. *subdivinitus* **nov.** ♀ Upperside normal, but aberrant in underside as *divinitus*.

Cepora pomona ab. *emblematis* **nov.** The small marks in interspaces 4, 5, 6, 7 of forewing on upperside spread towards the base. Round the black spot at the end of discoidal cell, the black scales scatter. Underside, the small spots at the end of discoidal cells in both wings surrounded by large fuscus areas.

Hebomoia glaucippe formosana ab. *dorotheae* NAKAHARA. ♂

Ixias pyrene insignis ab. *pallida* NIRE. ♂

Hitherto, above-mentioned two aberrant forms have been known in science, except for the type specimens. So in this time, the second examples are given. Both in author's collection.

Cepora nadina eunama ab. *discoloris* **nov.** ♂ All black markings of both wings on upperside fade into light brown. Also greyish dark areas on underside change to light brown.

Tirumala hamata septentrionis ab. *seminocturalis* **nov.** ♂ This is melanic form, only in hindwing as compared with the all nigrescent form *nocturalis* MURAYAMA. (New Ent. 7, 1958)

Ypthima multistriata ab. **nov.** ♂ Only the right wing on underside is abnormal. The ground colour in area from base to submargin almost yellowish grey, so waving markings disappeared. In connection with the aberrant *Ypthima*, I report here a new aberrant *Ypthima* from Japan, (Hyogo, Mikage, Honshu, Mr. YOSHISAKA leg., in author's collection.) as follows;

Ypthima motschulskyi ab. *yoshisakai* **nov.** ♂ Underside of both wings, greyish brown margin outside of yellow ring around each eye spot vanishes.

Symbrenthia hippoclus formosana ab. *necopinatus* **nov.** ♂ Upperside, almost reddish markings on hindwing evanish. Underside, the transversing reddish brown lines of both wings lost. All whirl-like markings get out of shape, and fuse. The blue patch near the tail of hindwing changes darkish brown.

Precis iphita ab. *gynaiensis* **nov.** ♂ Upperside darkish black areas in submargin as well as central part very indistinct, the submarginal lines of eye spots in hindwing on both sides vanish.

Precis iphita ab. *pullus* **nov.** ♂ Upperside the submarginal line of the obscure light patches on both wings. Underside on both wings, ground colour yellowish grey, large irregular reddish brown mark near the base.

Precis almana asterie ab. *inauditus* **nov.** ♀ Upperside forewing, two small eye spots near apex degenerate into slight black specks, the submarginal dark zigzag line moves towards the base. Hindwing two central eye spots fuse, the whitish speck in each eye spots vanishes, the submarginal dark zigzag line moves towards the base. Underside, two small eye spots near apex on forewing as well as central two large eye spots on hindwing degenerate.

Precis almana asterie ab. *fluentis* **nov.** ♂ Upperside forewing, reddish ground colour extends to outer margin, the eye spot in interspace 2 disappears. The black markings also eye spots near apex almost lost. Hindwing very melanic, central eye spot somewhat degenerate, the eye spot near outer margin interspace 2 not so distinct. Underside black marginal and submarginal lines of both wings, eye spot near apex evanish. The darkish brown colour in the eye spots in interspace 2 on both wings, also in central part change to same yellowish brown as ground

colour.

Precis almana asterie ab. *liquefactus* **nov.** ♂ Upperside the most part of both wings darkish brown, the marginal, and submarginal black lines disappear, marginal area greyish yellow, eye spots very indistinct. Underside the base, fore marginal area and apex of forewing almost darkish black. Each eye spots of both wings degenerate, the central whitish band very obscure.

Sephisa chandra androdamas ab. *scurrae* **nov.** ♂ Upperside forewing, the line of white patches, outside of large red marks, 3 obscure light white spots almost vanish. Hindwing the central narrow red markings fuse, or about to fuse with the submarginal red markings. Underside, the white spot near the base vanishes, the central red marking somewhat reduces, the line of white spots, pale spots, outside of it smaller. Hindwing, submarginal red marking fuses or about to fuse with the central red marking in each interspace, but the red marking in discoidal cell splits in half two. The line of blue markings very remarkable.

Euthalia formosana ab. *nugatoris* **nov.** ♀ Upperside, the central yellowish white band of forewing very narrow, its concolour not clear. Hindwing, the central yellowish white band disappear, the submarginal area light blue greyish. The light band near outer margin in normal form lost. Underside, the discoidal cell of forewing darkish except for 2 rings. The central yellowish white band of hindwing blackish blue, its outline very fade, but only the both sides of each vein light, the line of darkish black markings evanish. In Mr. T. SHIMONOYA's collection, another more complete specimen is preserved.

四国沖ノ島及びその周辺の島でアマミウラナミシジミ、メスアカムラサキを採集

井 上 宗 二[1)]

Capture of *Nacaduba kurava* and *Hypolimnas misippus* in Shikoku

By SŌJI INOUE

私の勤務する平安高等学校の生物クラブでは毎年夏季休暇を利用して島嶼の生物相の研究を続けているが，1960年は高知県宿毛市の沖ノ島とその周辺の島々をその対象として7月24日から8月8日の間，調査，採集を行った．その結果，沖ノ島及びその周辺の渡島した三つのいずれの島でもアマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava septentrionalis* SHIRÔZU を次のように16頭採集した．四国地方からの最初の採集記録として報告する．

柏島 24. VII 1♂；沖ノ島 26. VII 2♂♂，VII. 29 2♂♂，30. VII 2♂♂ 1♀，5. VIII 1♂；鵜来島 2. VIII 2♂♂；姫島 3. VIII 5♂♂

この種の食餌種とされているモクタチバナはこれらの島々に普通に見られ，発生を続けて来た可能性も考えられるが，この発生が本年のみの現象であることも考えねばならぬので，土着種ときめるにはなお今後の調査を必要としよう．これにつき御教示を得た，九州大学白水隆先生に感謝の意を表します．

なお，8月2日，鵜来島にてメスアカムラサキ *Hypolimnas misippus* LINNÉ 1♂ を採集した．迷蝶採集の1例として報告しておく．

---

1) 京都市上京区寺町今出川下ル